

発行：日立製作所労働組合 政治部  
〒136-0071 東京都江東区亀戸9-3-13  
編集：日立グループ議員団会議  
2005年 5月 No.39

# 日立グループ 議員団だより

ホームページアドレス：<http://www.hitachi-gr-giindan.jp/>

## 日立グループ議員団活動方針（議員団の心得5原則）

- 1.日立グループ労組出身議員であることの自覚を常に堅持すること。
- 2.政治活動は、日立グループ連合、日立労組の運動方針を基本とすること。
- 3.電機連合をはじめ、支援組織との連携強化に努力すること。
- 4.地域活動は住民の心を的確に掴み活発に展開すること。
- 5.常に研鑽に励み、清潔な姿勢を貫き、住民の信頼を高めるようにつとめること。



国会で安全対策について  
質問する大島衆議院議員

# 競争社会の落とし穴 安全と人間優先の社会を 実現するため全力を挙げます



日立グループ議員団会長  
衆議院議員  
大島 章宏

## 過剰な競争社会の 落とし穴

4月25日（月）9時18分、JR西日本鉄道の福知山線で起きた脱線事故は、関係者の懸命な救出作業にもかかわらず、運転手を含む死者107名と負傷者460名を出す大惨事となりました。たまたま乗り合わせた電車がこんな事になるとは、事故にあわれた方々も家族の方も、まったく想像だにできなかった事でありましょう。亡くなられた皆さんのご冥福と負傷された方々の一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

原因については現在調査が進められていますが、JR西日本社長に対する「利益優先が人を殺したのですよ」という遺族の言葉がすべてを物語っているのではないでしょう

か。行き過ぎた競争社会の中で、無理に無理を重ねた結果、事故は起きてしまいました。この事故の直接原因は、もちろん規則違反の異常な運転をしたことにあるのは確かですが、同時に、このような事態に追い込んだJR西日本鉄道の経営姿勢も厳しく問われなければなりません。

## 「安全」は 「効率」より大切

小泉首相と竹中大臣のコンビは、「強者支援、弱者冷遇」の日本社会に大改造中ですが、過去に、雪印乳業事件、三菱ふそうトラックス事件、JCO事故、関西電力美浜原子力発電所の配管破断事故など、いずれも「安全」より「効率」を優先したために大事故になってしまいました。何のため

の企業活動か、日本社会の基盤の再点検を行わなければなりません。日本民族は、古来より「約束を守る」「社会規範と社会道徳を守る」「思いやりと、秩序正しい穏やかな社会」「両親を大切に」「老人や

子どもを大切に「する」という社会通念がありました。しかし、今日、このような古き良き日本の文化や伝統はほとんど影を潜め、「市場万能主義」「効率優先」「利益優先」の社会的風潮が強まり、今日をどう生き抜くかという、まさに倫理感や精神的ゆとりのない社会となり、過剰な競争社会へと突入しています。

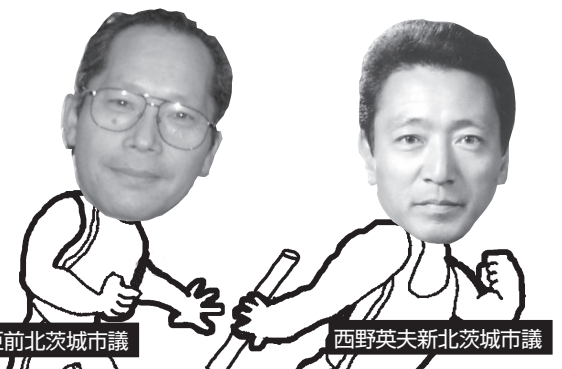
## 次期総選挙で 政権交代を

無秩序に過剰な競争社会をひた走る日本国を、人間と安全を大切にした秩序正しい日本国に軌道修正しなければなりません。私たち民主党は、まだまだ未熟な部分がありますが、皆さんのご期待に応えるために一層努力し、次期総選挙で「政権交代」を成し遂げ、安全と人間優先の社会を実現するために全力を挙げます。皆さんのご支援とご協力をよろしく

お願い致します。

## 北茨城市議 渡辺忠臣氏から西野英夫氏へ バトンが渡る!

先に行われました北茨城市議会議員選挙において、日立支部の「渡辺忠臣」前北茨城市議の後継者として立候補した「西野英夫」氏が見事な成績で当選を果たしました。



渡辺忠臣前北茨城市議 西野英夫新北茨城市議

### <西野英夫氏の略歴・主な政策>

#### 略歴

1979年 茨城県立水戸工業高等学校卒業  
同 年 (株)日立製作所 エネルギー研究所入所  
1985年 日立工業専門学院卒業  
現 在 (株)日立製作所 日立事業所  
ビジネスプロセス統括部勤務

#### 政策の主な柱

- やさしさ あふれるまちづくり
- 活気 あふれるまちづくり
- 夢 あふれるまちづくり

## 幹事長の 主張

## 思考停止は危険！ 異常ケースから問題を顕在化させ対策 一つひとつ信頼関係の再構築を



横浜市議会議員  
(ソフト支部)  
松本 敏

4月に起きた列車の脱線事故は悲惨でした。乗客に責任がないだけに、この上ない痛みを感じます。亡くなられた方に心からの哀悼の意をささげ、負傷された方にお見舞い申し上げます。私は乗り物を利用する場合、合ある程度危険を伴うと承知していますし、人は間違える時があり、機械は壊れるものと理解しています。しかし、自分が事故に会うとは考えていません。私たちは曖昧性との闘いの中で生活しています。従って、各種の規則を作りますが規則を作ったからと言って安心してはいけません。まず四隅をきれいに拭くことで、自らから真ん中もきれいにできるのです。

うに気をつけないければなりません。慣れ、無自覚、問題の先送り、他人まかせ、権力者のせいにする、などが思考停止の例です。マネージメントの原点は問題を顕在化させ、潜在している「ガン」の早期摘出に努力することです。例外や異常ケースから、先に対策を考えておくことです。例えば、窓ガラスを真ん中だけ拭いて「きれいになった」と喜んでいてはいけません。まず四隅をきれいに拭くことで、自らから真ん中もきれいにできるのです。

最悪の事態への準備を怠らないこと、利用者（市民等）との信頼関係を築き、押し付けより選択してもらう手法をとる方が良いと思います。願わくば、運命共同体という気持ちになつて頂くことです。もし何かの事故を起こしてしまつたら、自分の能力に合せて、一つひとつ愚直に対策していくことが、結局は混乱收拾を早めるのだと思います。



中村 健二/  
安来市議会議員  
(日立金属安来)

# 市民による水質浄化活動を推進

小学生の「EM」の団子作り(上)  
EM活性液を水路に投入(下)



※EM有用微生物群:  
有効無害なバクテリア(乳酸菌、酵母菌、放線菌、光合成細菌など)を80種以上共生させた液体状の微生物資材。強力な抗酸化作用により環境悪化の防止や動植物細胞の活性化に効果を示す。

現在、全国各地の自治体でEM活用技術の事例が紹介されていますが、安来市でも「EM有用微生物群」を活用した水質浄化活動を推進しています。  
安来市は、飯梨川、伯太川をはじめ、豊かな自然に恵まれています。中海が閉鎖性水域となっており汚染が進んでいます。安来市では、公民館等でEM講習会を2回開催し、488名の参加がありました。昨年度に市で製造したEM活性液は、4500リットル余りで、公民館に溶液を置き、市民に無料提供し、講習会で実演をしたように家庭で米のとぎ汁発酵液を作り、炊事場、お風呂、トイレ等で使用したり、直接水路や川に流して浄化をするよう取り組んでいます。

## EM有用微生物群を活用

また、一部の小学校ではEMどろ団子を作った汚れた水路に投入する「ドロ対策」や活性液によるプールの清掃といった活用をしています。  
子どもたちから大人まで市民全員が協力できる体制を作ることで、環境意識が高揚し、一日も早く安来港や中海の浄化が進むことを期待するものがあります。

# ふれあいステーション「よって家」オープン



椎名 敦史/日立市議会議員(HEC)

日立市のひたちぎんざもーる商店会(以下商店会)では、日立市の「街なか交流拠点設置事業」補助と茨城県の「商店街再生総合支援事業」補助を利用した、街なか交流拠点施設(中心商店街の空き店舗を利用した「街のたまり場」的なもの)としてふれあいステーション「よって家」を設置しました。設置場所は、日立市鹿島町1丁目(日立ぎんざ通り二十三夜尊隣り)です。

店舗改修後、オープンしました。平成16年2月には、ホームページ、ウェブカメラによる情報発信機能があり、11月には、ボックスショップ(市民による手造り品の展示・販売スペース)が設置されました。施設来場者数は、1日平均90人、平成17年3月末で4万3千人となりました。

補助終了後も、NPOとの連携等により、継続運営できるよう取り組みます。

## 補助事業を利用した交流拠点



「よって家」内で語り合う人々

商店会は、平成15年3月に幹事会・実行委員会を立ち上げ、①情報発信機能(イベント観光案内)、②ふれあい交流サロンコーナー(インターネットコーナー、地場産品・土産品コーナー)、③オープンカフェコーナー、④多目的スペース等を設置することとし、11月に

## 市政だより

## 議会活動レポート

日立グループ議員団所属議員の市町村での取り組みを紹介します

## 町政だより

大平町では町の玄関口である新大平下駅周辺の魅力を高め、中心市街地の賑わいを生み出すため、駅のもつ交通交流拠点の機能を活かして、生涯学習の場、情報発信の場、駅を利用する人々への利便性の提供の場などとして、旧日京ショッピングセンター(日立生協)の跡地 2,719㎡に、(仮称)まちづくり交流センター整備事業を進めています。

具体的な利用方法については、今後広く町民からアイデアを募るとしてあります。そのうえで、交流の場としての利用では、趣味の会や生涯学習教室等での作品の展示即売所(常設ギャラリー)、趣味の教室等の開催場所の提供、



まちづくり交流センターとなる旧日京ショッピングセンター

# まちづくり交流センター整備事業進む

本間 進/  
大平町議会議員  
(日立H&L栃木)



## 道路整備で創る快適な暮らし

# 国道6号線との立体化で交通渋滞の解消を

ひたちなか市の道路体系は、国道6号線と国道245号線を中心に隣接市町村を結ぶ主要地方道としての県道や市街地を相互に結ぶ都市計画道路で形成されています。



高架橋工事の様子



市政だより

平成17・18年度の2カ年で上部工を架設し、高架橋が平成19

本市は、那珂市と水戸市を結ぶ仮称水戸・勝田環状道路(市内延長約9.580m)の整備を図り、交通渋滞を解消し、物流の効率化やゆとりある時間の創出、ゆたかな自然環境、快適な都市環境の創出を目指しています。その計画の一部である国道6号線との交差点において、現在、高架橋工事として橋脚5基を築造しており、

平成17・18年度の2カ年で上部工を架設し、高架橋が平成19年3月に供用開始される予定です。周辺には工業団地があり常磐自動車道那珂ICから本市への通過交通が多く、国道6号線と平面交差するため慢性的に交通渋滞を起しているため、この事業は、国道部の立体化を図り交通渋滞の解消を図るものであります。私は、この事業全体の早期実現と県道昇格に期待すると同時に、安全で安心できる道路整備のあり方等について、さらなる研鑽が必要であると思っています。

高崎 修一/ひたちなか市議会議員(日立支部)

